

2018年1月9日

# 本日の特ダネ

# 新毎日

## 核実験場近く染色体異常

北朝鮮の核実験場  
は過去6回実施。昨年9月の6回目では、広島に投下された原爆の10倍超に相当する爆発が起き、マグニチュード6・1の人工地震が発生、小規模な揺れが複数回観測され、土砂崩れなども起きている。日本が韓など関係国や核実験全面禁止条約機関（CTBTO）が放射性物質の漏れを警戒し、監視活動を続けている。



北朝鮮の地下核実験場（咸鏡北道吉州郡豊溪里付近）に住み、2度の核実験後に脱北した元住民2人に原爆被爆者にみられるような染色体異常が生じている。韓国の研究者が収集したデータを広島の専門家が確認し判断した。推定される被ばく線量は高い人で累積394ミリシーベルトに達し、核実験による放射線の影響が疑われる。この数値は、広島に投下された原子爆弾の爆心地から約1・6キロの初期放射線量に相当する。豊溪里周辺では近年、核実験の影響が疑われる体調不良が報告されている。この現象は、広島に投下された原子爆弾の爆心地から約1・6キロの初期放射線量に相当する。豊溪里周辺では近年、核実験の影響が疑われる体調不良が報告されている。（2面に関連記事）

## 北朝鮮

# 住民被ばくか

## 広島爆心地1.6キロ相当

北朝鮮の地下核実験場（咸鏡北道吉州郡豊溪里付近）に住み、2度の核実験後に脱北した元住民2人に原爆被爆者にみられるような染色体異常が生じている。

韓国統一省も原子力医学院の協力を得て昨年11月、吉州郡出身の別の30人を検査した。その結果、核実験場から約20キロ離れた場所で生まれ育ち、同じく06年と09年の核実験を経て12年に脱北した40代男性からも染色体異常が見つかり、推定被ばく線量は累積394ミリシーベルトだった。ただ、韓国側は

「北朝鮮の居住環境がもたらす影響を評価する情報がないため、核実験の影響とは断定できない」と結論を避けている。

韓国側のデータを評価した星正治（広島大名誉教授）は「放射線生物学（放射線生物・物理学）は放射性物質を含んだガスや粉じんを浴びた可能性がある。セシウムの数値などは被ばく線量は累積320ミリシーベルトだった。

韓国統一省も原子力医学院の協力を得て昨年11月、吉州郡出身の別の30人を検査した。その結果、核実験場から約20キロ離れた場所で生まれ育ち、同じく06年と09年の核実験を経て12年に脱北した40代男性からも染色体異常が見つかり、推定被ばく線量は累積394ミリシーベルトだった。ただ、韓国側は

「北朝鮮の居住環境がもたらす影響を評価する情報がない」と分析している。

考へられる初めての結果ではないか」と分析している。

1面掲載

お問い合わせは下記販売店まで